

米国務省主催マレーシア FIRST Workshop in Kuala Lumpur への参加

JICC は、(一財) 海外産業人材育成協会 (AOTS) と連携し、米国務省 (US-DOS) に協力して FIRST ワークショップの準備を行うとともに、同協会が実施する経済産業省委託事業の専門家として、8月19日～22日にマレーシア・クアラルンプールで US-DOS 主催、経済産業省も参加の下で開催された FIRST ワークショップに参加し、講義および指導を行った。また、日本原子力発電株式会社からも AOTS 専門家として参加があり、講義が行われた。

【経緯/目的】;

マレーシア政府は、2050年カーボンニュートラル達成に向け原子力発電導入の検討を再開し、第13次マレーシア計画において2031年までに300MW級原子力発電の導入を明記するとともに、エネルギー・水変革省 (PETRA) 主導・MyPower が NEPIO 機能を担う体制を強化している。本 Workshop は、SMR 技術の責任ある利用に関する知見共有および人材育成を目的として、米国務省主催、日米マレーシア協力の下で実施された。

【実施内容】;

本 Workshop には、PETRA、MyPower、国家エネルギー委員会 (EC)、科学技術革新省 (MOSTI)、マレーシア原子力庁 (MNA)、TNB (国家電力会社)、PETRONAS (国営 Oil & Gas 企業) 等の関係者約40名が参加した。キーンोटではマレーシア原子力導入検討の最新状況やエネルギーミックスにおける原子力の重要性が紹介され、日米英専門家による原子炉技術評価 (RTA)、サイト要件、ステークホルダー・エンゲージメント、人材育成、規制制度等に関する講義および意見交換を実施した。あわせて、関係機関との個別面談を行った。

【成果】;

- ① Workshop において、日本側は AOTS 専門家として、原子力発電所のサイト要件、福島第一原子力発電所事故後の信頼回復に向けたコミュニケーション戦略、人材育成について講義を行うとともに原子炉技術評価 (RTA) セッションのファシリテーターを行い、マレーシア関係者の理解を深めた。
- ② Workshop 期間中およびその前後に、PETRA、MyPower、EC、TNB、PETRONAS 等との面談を通じ、最新の検討状況を確認するとともに、課題認識を共有し、日米協力の下での継続的支援の重要性を確認した。

